

おっばいだより

新潟市民病院母乳育児推進委員会 平成30年11月

53号

今回のおっばいだよりは、「カップ哺乳」についてお話をさせていただきたいと思います。「NICU のカップ哺乳」は、当院のNICU で働いている看護師さんにお話をさせていただきました。

NICU のカップ哺乳 ～赤ちゃんにやさしいNICU をめざして～

NICU では、2017年4月頃よりカップ哺乳を導入しています。カップ哺乳は、その名前の通り、哺乳瓶を使わずにお猪口のようなカップで飲んでもらっています。

目的は、カップ哺乳を行うことで、乳頭混乱(哺乳瓶と直接授乳では赤ちゃんの吸い方が異なるためおっぱいを吸うときに混乱してしまうこと)の予防につながり、お母さんのおっぱいをスムーズに覚えてもらうためです。産科病棟ではすでに導入されている施設も多々ありますが、NICU でカップ哺乳を行っている施設はまだ少ないです。たくさんの赤ちゃんへカップを使っただけの哺乳が上手く導入できるのか不安はありましたが、導入後約1年半が経過しました。今回はどのようにNICU にカップ哺乳を導入していったのかをご紹介します。

2016年秋頃、新生児内科の永山先生の「カップを始めるぞ」の一声からカップ哺乳が始まりました。依頼されたスタッフは「どうやって?いつから?」疑問ばかりが拳がりました。そんな時、母乳の会のワークショップで知り合った、BFH を目指している山形県立中央病院のNICU スタッフより、カップ哺乳を始めているとの情報がありました。

2017年3月、永山先生や川上副看護部長を巻き込んで、NICU のスタッフ3人と一緒に先行施設の見学へ行くことができました。実際のカップ哺乳の様子を見学させて頂いて、当院でも導入できるよう準備を始めました。

使用するカップは永山先生がすでに準備していたものですが、洗浄方法や取り扱いでもスウェーデン語の和訳から始まり耐熱は大丈夫かなど、現在の洗浄方法に落ち着くまでに1ヶ月以上かかりました。

これが赤ちゃんのカップ哺乳で使っているスウェーデン製のカップです!



スタッフ全員に目的を理解してもらい、正しく哺乳してもらうために手順の作成や説明会を行いました。始めは戸惑っていたスタッフも少しずつ慣れていってくれました。

導入当初は、主治医からの説明後、お母さんに同意をもらっていました。現在では、母乳育児を成功させるための10か条に基づいて母乳育児支援を行っていることを周知し、哺乳が開始されたら同意は得ずにカップ哺乳を始めています。

導入後1年が経過して、カップ哺乳の効果ですとはっきり裏付けはできていませんが、フリー面会の相乗効果もあって、退院前に直接授乳が上手になる赤ちゃんが増えている印象があります。そこに新しい問題も出ています。おっぱいが上手になると、おっぱいのお口になっていてカップ哺乳が嫌いになる赤ちゃんが多いのです。そんな時は、「そろそろ退院の時期かな」と思っています。このような問題や見直しもまだまだ必要なカップ哺乳ですが、お母さんと赤ちゃんに優しいNICUを目指して取り組みを続けていきます。

このように赤ちゃんは上手に飲んでいきます。



授乳中の赤ちゃんの口の動きについて



超音波で赤ちゃんの授乳の時の口の様子を見てみると、乳房から赤ちゃんが直接母乳を飲むときは、赤ちゃんが口を開けている時に母乳を飲みとり、流れていきます。哺乳瓶から飲むときは、赤ちゃんが口を閉じている時に母乳・ミルクが流れていきます。両者では、飲み方が異なるのです。

「乳頭混乱」という言葉がありますが、これは、赤ちゃんが、人工乳首やおしゃぶりの方を好み、母親の乳房から直接飲むのを嫌がる現象のことを指します。赤ちゃんが混乱してしまうのは、もしかしたら、直接授乳と哺乳瓶では飲み方が異なることが1つの要因なのかもしれません。

一方で、カップ哺乳は、赤ちゃんが口を開けているときに、母乳・ミルクを飲みとっています。カップ哺乳は直接授乳と同じ飲み方になっているようです。

飲む姿を見ると、直接授乳とカップ哺乳では異なりますが、赤ちゃんの口の動きで見ると、カップ哺乳は、赤ちゃんが混乱しない、赤ちゃんにやさしい飲み方なのかもしれませんね。

◆参考◆

やわらかな風の吹く場所に:母乳育児を応援 <https://smilehug.exblog.jp/>

次号もお楽しみに！

